

# 第1学年 算数科の実践

1 単元名 「くらべてみよう」(全8時間 本時7時間目)

2 単元目標

- ・直接比較、間接比較、任意単位による比較を使って、量の大きさを比べることができる。
- ・長さ、かさ、広さの特徴をとらえ、長さ、かさ、広さを比べる方法や数値化する方法を考える力を養う。
- ・量の測定の仕方について、それぞれの方法のよさを見いだしながら学習しようとする態度を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

## <聴く・話すについて>

4月に、話を聴く「ききてめいじん」と自分がみんなに話す「はなしてめいじん」になるときに気をつけることを考えた。この2つの名人に加えて、日常の中で友達の話をよく聴いて反応している児童がいたときには、良い反応として取り上げ、反応の仕方を教室に掲示するようにしている。

「聴く」とときには、相手を見ながら聴くことが大切であると全体で確認した。さらに、友達の言葉を聞いて自分なりに反応すると良いことを伝えている。挙手するときには、「他にあります。」「似ています。」などの言葉やそれを示すハンドサインを使うよう指導している。

「話す」については、全体に考えを述べる前にペアトークの時間を頻繁につくるようにしている。一人一人が考えをもつことができるようにしていきたい。そのために、「一人でじっくり」「みんなでパワーアップ」という表示を使って視覚的にも今何をするのがわかるようにしている。話すことを通して、自分の考えに自信をもってもらいたいと思っている。

## <これまでの関わり合い・ひびき合い>

自分の考えをもって話し合いができるように、個人で考える時間、近くの人と話し合う時間を取り入れるようにしている。ペアでの話し合いに少しずつ慣れてきて、すぐに話そうとする児童が増えてきた。しかし、相手の言っていることがわからなくてもそのまま聞いて終わってしまったり、自分から話すことができずに黙って終わってしまったりするペアも見られる。相手の考えに反応しながら、わからなかったら何がわからないのかを伝えられるよう練習している。中には、相手がノートに書いた内容を見て、「こういうこと？」と相手の言いたいことを考えようとする児童もいる。

全体での話し合いでは、自分や友達の考えが誰のものに似ているかを考えながら聴くことができるように、問いかけながら進めている。児童の発言からも、少しずつ「〇〇さんの考えに似ていて…」と比べながら発言をする児童が増えてきている。また、友達の考えについて、「とてもいい考えだね。」「気付かなかった。」と他の考えを受け止める姿も見られてきた。しかし、夢中になると自分の考えを言いたいという気持ちが勝ってしまう場面が見られる。その場合には、友達の考えに対してどう思うかを確認するようにしている。

4 単元と指導について

## <単元について>

本単元は、量の単位を用いて測定する前段階として、身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしたり量の大きさを表現したりすることを主なねらいとしている。児童の日常生活や学校生活の場面と算数の学習をつなげていくために、身近なものを使って実際に操作しながら様々な量の大きさを比べていく。

比べ方については、直接比較と間接比較、任意単位による測定がある。長さは、「測定」で取り扱う様々な量の中で基本的な量となる。このことから「長さ」で考えた比べ方をもとに、かさ、広さの比べた方も考えていくこ

とができるようにする。

#### <指導について>

図工の「やぶいたかみからうまれたよ」の学習で、新聞紙を一人一人が破り、どれだけ長いものができるかを試した。それぞれ自分が破いた長さに満足していたが、その中で「僕のが長い!」「私の方が長い。」と、友達よりも長くできたのではないかという思いをもっている児童が何人かいた。そこから、どのように長さを比較していけばよいかを考えていく。長さの比較の仕方を考えるうちに、他の物も比べたいという気持ちが出てくるであろう。さらに、長さだけでなく、かさや広さについても、「比べる」という合言葉をもとに考えていく。毎回、どちらが長い・多い・広いか、疑問に思うことができるように、同じくらいの大きさのものを用意しておく。

本時では、校外学習で使ったレジャーシートを3枚用意する。2枚は、重ねればすぐにどちらが広いかわかるものだが、もう1枚は、重ねてもわからない。そこから、子どもたちが解決したい問題は、「どっち(どちら)がひろいかな?」になると考える。

児童にミニシートを配ることで、切って重ねたり、レジャーシートは実際に切ることができないことから、長さやかさで行ったように、マスやブロックなど同じものを使って比べる間接比較をしたりして、比べ方を考えられるようにしたい。様々な比較の仕方があるため、本時では、「どうすれば広さを比べられるか、友達の考えに反応しながら考える姿」をひびき合いの姿としたい。

5 単元構想について

単元目標

- ・直接比較、間接比較、任意単位による比較を使って、量の大きさを比べることができる。
- ・長さ、かさ、広さの特徴をとらえ、長さ、かさ、広さを比べる方法や数値化する方法を考える力を養う。
- ・量の測定の仕方について、それぞれの方法のよさを見いだしながら学習しようとする態度を養う。

図工の学習で…  
どれが長いかな？

どっちがながいかな？①②③

- ・はしをそろえればできるよ。
- ・ぴんとのばさないとわからないよ。

身の回りにあるいろいろなものの長さを比較する活動を通して、長さについての感覚を豊かにしようとしている。(態)

新聞紙だけでなく、いろいろな長さを比べるもの(鉛筆やひも、ハンカチなど)を用意しておく。

- ・~~折ってみるとわかると思う。~~
- ・長いと大変だね。
- ・私は4本分だった。
- ・同じもので比べないと。
- ・もっと比べたい!
- ・調べよう。
- ・鉛筆何本分かな。
- ・同じもので比べるとわかるんだ。

直接比較、間接比較の方法を理解し、長さを比べることができる。(知)

どっちがおおいかな？④⑤⑥

2種類の容器を用意しておく。

- ・片方の水を、もう1つの入れ物に移したらわかりそう。
- ・あふれたらそっちの方が少ないってこと。
- ・違う入れ物に移して比べたら？
- ・コップ何杯分か調べれば、どっちが多いかわかるよ。
- ・私の水筒は何杯分かな？

長さの比べ方を参考にして、かさの比べ方を考えている。(思)

直接比較、間接比較の方法を理解し、かさを比べることができる。(知)

たらい、ブラコップ、雑巾を用意しておき、さまざまなもののかさをはかって、比べる。

どっちがひろいかな？⑦(本時)

3種類のレジャーシートを用意しておく。また、児童が手元で操作できるように、ミニシートを用意する。

- ・重ねればわかるよ。
- ・はみ出てるから、どっちが広いかわからない…
- ・切ってみたらいいんじゃない？
- ・同じもので数えてみたら？
- ・折り紙とかブロックとか…

長さとかさの比べ方を参考にして、広さの比べ方を考えている。(思)

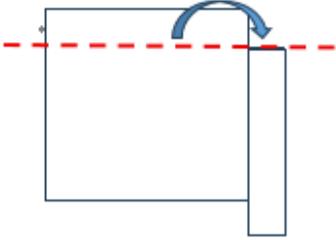
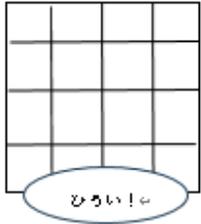
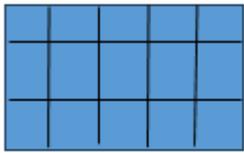
直接比較、間接比較の方法を理解し、広さを比べることができる。(知)

まとめよう⑧

直接比較、間接比較、任意単位による比較を使って、量の大きさを比べることができる。(知)

## 6 本時について

本時目標 長さやかさの比べ方を参考にして、直接比較や任意単位による比較など、広さの比べ方を考えることができる。

学習活動	主な支援・留意点
<p>どっちがひろいかな？</p> <p>・かさねる</p>  <p>?</p>  <p>・きってくらべる</p>  <p>・おなじものいくつか</p> <p>16こ</p>  <p>15こ</p> 	<p>主な支援・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3種類の大きさのレジャーシートを用意しておく。</li> <li>・児童一人一人が手元で操作できるように、ミニシートを配布する。</li> </ul> <p>★教師の出発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩んでいる児童が多い場合は、途中で「さくせん」として、長さとかさの比べ方が使えるかどうか助言したり、気付いている児童にヒントを出させたりする。</li> <li>・考えた比べ方を近くの人に伝えさせる。→全体で話し合う。</li> </ul> <p>◆長さやかさの比べ方を参考にして、広さの比べ方を考えている。 【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陣取りゲームをして、任意単位による比べ方の定着を図る。</li> </ul>

## 7 実践を終えて

本単元では、長さ・かさ・広さについて身近なものを比べる活動を行った。図工で行った新聞紙を切って誰が長い競争したこと、ペットボトルのジュースはどちらが多いか考えること、レジャーシートはどちらが広いか考えることは、どれも児童にとって身近で比べたくなるものとなった。長さの学習で、直接比べられないときはどうすればよいか考えて順に確かめていったことで、少しずつ比べ方の種類が増えていった。

たし算やひき算などの単元でノートに図や言葉を使って自分の考えを書く取り組みをしていたため、今回もどのように比べたのか、図や言葉で書き表している児童が多かった。

〈本時について〉

### 【成果】

- ・レジャーシートが身近で、どちらが広いか考えたいという題材だった。
- ・ミニシートを一人一人が自分で切ったり重ねたりしたことで、どちらが広いか考える手立てとなっていた。そのため、切る、折る、ブロックを使うといういくつかの比べ方が出た。

### 【課題】

- ・様々な比べ方をしていたものの、作業時間が長くなってしまったことにより、全体で確かめる時間が少なかった。友達が伝えた比べ方をそれぞれが手元でやって確かめられると、より実感を伴った理解ができる。
- ・新しいシートをもらって何度も切って比べた児童は、どれとどれを比べたのか分からなくなってしまっていた。番号をふるなど、わかるようにできるとよい。
- ・児童が切る部分を全体に伝えたときに、どこにはさみを入れるか線を書いて確認してから切るとわかりやすい。

# 11/27 算数 くらべてみよう



どっちがひろいかな？

友達の考えを聴いて、自分で試そうとする姿

- ・広さのミニシートが一人1つあってよかった。
- ・切る、折る、ブロックという意見が出た。
  - ・導入のレジャーシートが身近だった。
  - ・ノートに自分の考えを書いていた。
  - ・集中して、意欲的に活動していた。

- ・はさみで切る前に線を引いて見せてから切るとわかりやすい。
- ・ブロックの任意単位の考えは、次時でもよかった。
- ・友達の考えを振り返り、やってみる時間があると実感できる。
- ・ノートのマスで考えると気づきやすいかも。
- ・書く時間と伝え合う時間の配分

ひびき合い